

小沢一郎氏は無実！ 権力の暴走を糾弾します。

既得権勢力の、小沢一郎抹殺の手口

・09年3月、建設会社によるダミー団体経由の献金受領の容疑で、他に自民党議員含む20名近くの議員が献金を受けているのに、東京地検特捜部は、小沢一郎の資金管理団体「だけ」摘発、秘書を逮捕。(裁判で、ダミー団体でなかったことが明らかになり事件性消滅)

・秘書寮のための土地代金のための借入金収入と支払いの支出が3ヶ月ずれて年度越えになっていることを「政治資金収支報告書虚偽記載」として、小沢一郎の秘書・元秘書の議員を東京地検特捜部が逮捕。建設会社元会長による「秘書に裏金計1億円を渡した」との証言をもとに収賄の疑いで捜査。(裁判で、会計学の権威が、会計処理上何の問題もないことを明言。また裏金提供を供述した建設会社元会長は、かつて脱税で摘発され、実刑回避のため東京地検特捜部の指示により、偽証を行った前歴がある)

・東京地検特捜部は小沢一郎を、一年以上にわたり家宅捜索を含め徹底的に捜査したが、「裏金受領」の証拠は発見されず、起訴を断念。しかしこの期間、記者クラブを通じた捜査情報リークで、マスコミによる執拗な「政治とカネ」疑惑の偏向報道キャンペーンを繰り広げ、「小沢＝金権」のイメージを国民大衆の脳裏に刷り込み世論を誘導。

・実体不明の市民団体による「小沢一郎を起訴すべき」とする告発を受け、東京第五檢察審査会が二度、起訴議決を下す。審査メンバーは抽籤によって入れ替えされる規定になっているが、抽籤ソフトは不正なマニュアル操作が可能。二度の起訴議決いずれも、審査員メンバーの平均年齢は、抽籤前後とも平均年齢 34.55 歳であり、若すぎる上に確率的にありえないことから、不正が行われたことは確実。

・東京地検特捜部はゼネコン関係者らの「小沢一郎に裏金を渡していない」という供述資料70点を、意図的に除外して檢察審査会に提供。平均年齢 34.55 歳の、社会経験の乏しい檢察審査会メンバーは報道に刷り込まれた先入観にもとづき審査に臨むこととなった。

・檢察審査会の審査補助弁護士は当初、檢察審査会のあり方に疑問を呈していた弁護士だった。が、この弁護士は外され、小沢一郎と敵対する政治家とのつながりが指摘される弁護士が審査補助員に選任された。



・小沢裁判(陸山会事件裁判)一審において、裏金・虚偽記載の共謀、いずれも証拠不在。にもかかわらず、11年、登石郁郎裁判長は「推認」の連発にもとづき、もと秘書らに有罪判決を下す。「証拠主義」、「推定無罪」の法倫理を裁判官みずから踏みにじった不当判決により、登石郁郎裁判長は「ミスター推認」の異名で呼ばれることとなる。



登石(といし)郁郎 裁判長

・小沢一郎の公判過程で、秘書の取調べを担当した前田恒彦元検事は、「当時の捜査には問題があった」、「見立て違いの妄想だった。現場は厭戦(えんせん)ムードだった」、「裏献金問題で小沢さんを立件したいのは特捜部長ら数人だった」と証言。

・石川知裕議員(元秘書)は「検事から『ヤクザの手下が親分を守るためウソをつくようなことをしたら選挙民を裏切ることになる』と言われて『小沢先生に虚偽記載を報告し了承を得た』と供述したとされるが、このような会話はなく、捜査報告書は取り調べ担当の田代政弘検事による捏造。捏造箇所は複数存在し、石川議員が隠し録音していたことにより発覚した。(その後、市民団体「健全な法治国家のために声をあげる市民の会」が田代検事を偽計業務妨害罪、虚偽有印公文書作成罪および同行使罪で刑事告発)

・小沢一郎に対するほぼすべての疑惑が捏造・誘導によるものと明証されたにもかかわらず、12年3月9日論告において、起訴担当の指定弁護士

3名は、「周到な準備と巧妙な工作を伴った計画的で悪質な犯行。刑事責任を回避するため不合理な否認を繰り返し、反省の情はまったくない。規範意識の鈍磨とあいまって再犯の恐れは大きい」などと、事実の裏づけなしに一方的非難を連ねた、100ページに及ぶ文書で「禁固3年」の求刑を行った。



「証拠なし求刑禁固3年」の起訴担当弁護士
左から山本健一 大室俊三 村本道夫

カレル・ヴァン・ウォルフレン著 「誰が小沢一郎を殺すのか？」第一章、
「人物破壊」にさらされる小沢一郎 より



小沢氏の人物破壊キャンペーンに関する限り、これは世界のあらゆる国々の政治世界でも目にすることのない、きわめて異質なものと結論せざるを得ない。世界のどこを見回しても、ひとりの人間の世評を貶めようとするキャンペーンが、これほど長期にわたって延々と繰り返されてきた例はほかにない。

小沢氏は、日本が変わらなければならないことを知っている。しかも彼は本気でそれに取り組んでいる。日本の旧態依然とした体制を変えまいと固執する勢力から見れば、そんな小沢氏は脅威なのだという事実を、我々ははっきりと認識しなければ

ならない。そのときどきで程度の差こそあれ、小沢氏に対する『人物破壊』の試みが、現在にいたるまでずっと続いてきたのはなぜか？ それは彼が実際に何をしたか、どんな過ちをおかしたかなどということとはまったく関係がない。彼という存在が体制側にとって最大の脅威であること、それこそが理由なのである」

小沢一郎氏は無実！ 陸山会事件国策捜査・不当裁判糾弾デモ 連続実施中
開催情報サイト <http://wrongly-convicted.seesaa.net/>